

# 東部水産漁港部だより

宮城県東部地方振興事務所  
水産漁港部「みやぎ水産の日」PR広報紙

12月号



(令和元年12月27日発行)

【お問合せ先】水産漁港部内 水産振興班, 漁業調整班

TEL:0225-95-7914, 1473

## ～女川魚市場編～ まき網『サバ』が好調です！！

取材日の12月12日は、まき網船、サンマ棒受網船、定置網船などの水揚げがありました。まき網による「マサバ」の12月の水揚げ量は、約1,100t(12月24日現在。昨年度水揚げ量195t(イワシ混み))と好調です。

今年度のサンマ漁は、12月2週目に終漁となりました。8～12月の水揚げ量は約4,500tで、非常に厳しいシーズンとなりました。来年の好漁を祈念しております。

### まき網

当日は、「マサバ」248tが水揚げされ、102～123円/kgで取引されました。「マサバ」は、血液中の中性脂肪や悪玉コレステロールを減らす働きがあるEPAと、脳細胞の働きを活性化するといわれているDHAが豊富に含まれています。

魚倉からの水揚げ



水揚げの様子



水揚げされた「マサバ」のサンプル



マサバ

### サンマ棒受網

当日は、3隻の水揚げが午前5時から始まりました。水揚げ量は62.5t、取引価格は95～130円/kgでした。

魚体は、100g前後のものが多かったようです。

水揚げの様子



サンマ



サンプルの重量計測



水揚げされた「サンマ」のサンプル



サンマ



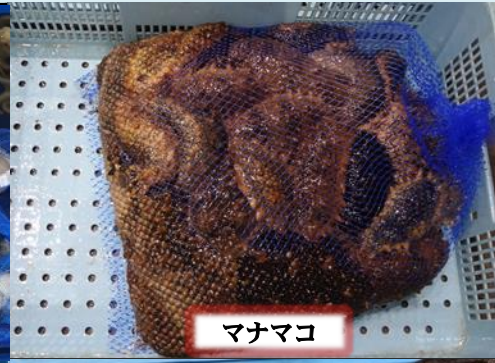
# 活魚・陸送品

当日取引されたのは、「マダコ」262kg、「ヒメエソボラ」59kg、「マナマコ」8kgなどです。

石巻地域では「ナマコ酢」をお正月に食べる風習があります。また内臓を塩漬けにした「このわた」は、ウニ、からすみ(ボラの卵巣)と並んで日本三大珍味の一つに数えられます。



マダコ



マナマコ



ヒメエソボラ



ヒラメ



キアンコウ

# 定置網

定置網では、「マダイ」846kg、「マアジ」728kg、「ブリ類」500kgのほか、「マイワシ」、「ウミタナゴ」などが水揚げされました。

縁起物としてお正月にオススメの食材「マダイ」は、240~1,360円/kgで取引されました。50cmを超える大物も数多く水揚げされました。



マダイ



マアジ



イナダ(ブリ)



マイワシなど



ウミタナゴ



## 今年の振り返りと令和2年に向けて！！

～女川魚市場～ (株式会社女川魚市場 木村部長にお話を伺いました)

今年は、春から夏にかけての「養殖銀ザケ」はまあまあ良かったが、秋から冬にかけての「サンマ」の不振が大きく響いた。水揚げも例年より1ヶ月遅い10月5日から始まり11月初旬にはいったん回復の兆しをみせたが、シーズン通しての水揚げ量は、最低といわれた2017年の半分以下だった。

来年は、「養殖銀ザケ」の今年以上の実績と、「サンマ」の回復に期待している。また、今年より誘致している、まき網の「サバ」も期待している。

懸念材料としては、海外産の安価な魚と海洋環境の変化や資源量の減少である。



女川魚市場 木村部長

～石巻魚市場～ (石巻魚市場株式会社 佐々木社長にお話を伺いました)

今年は、約30年振りに商業捕鯨が再開され「ミンククジラ」のセリが行われた。主力の「金華サバ」は、まき網船による「マサバ」の不振もあり、シーズン到来が昨年より1ヶ月遅かった。

来年は、クジラの生肉を求めるお客様も多いことからクジラの取引には期待している。「金華サバ」は、出足こそ遅れたが3月まで水揚げを期待している。



## みやぎ漁師カレッジ第3期長期研修の閉講式が行われました

令和元年12月20日(金), 女川町まちなか交流館において, みやぎ漁師カレッジ第3期長期研修の閉講式が行われ, 研修を受講した8人全員が卒業しました。

須田善明女川町長より, 「8人で学んだことを財産にし, 若い生産者の新たな発想で宮城県の一次産業を支えて欲しい」と激励を受けた受講生は, 「お世話になった方一人前になることで恩返しをしたい」, 「早くいろいろな仕事を(親方から)

任されるよう努力したい」などと意欲を示していました。

彼らは今後, 県内各地で行われている漁業者のもとに就業し, 漁師としての道を歩み始めます。中部地区管内では新たに4人の方が就業します。

研修で多くのことを学んだ彼らの今後の活躍に期待が高まります。

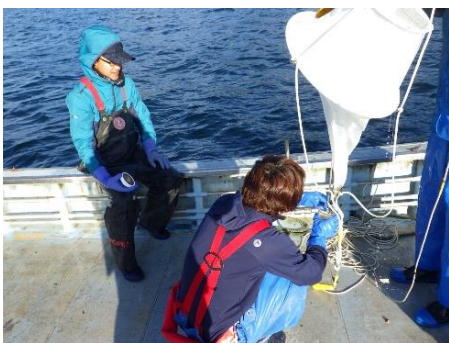


▲修了証書を受け取った受講生

## 漁業士会員の紹介



▲横江健至青年漁業士



▲マボヤ浮遊幼生調査の様子

横江健至(やすゆき)氏は, 宮城県漁業協同組合雄勝町雄勝湾支所に所属し, 地域の基幹産業であるホタテ・ホヤ養殖業を営んでいます。

漁業生産の安定化と増大に努め, 地域漁業の発展に寄与していることが認められ, 令和元年6月に青年漁業士に認定されました。

横江氏は, 青年部でも中心的な役割を担っており, 「マボヤの浮遊幼生調査」や, 新養殖検討種の「ダルス養殖試験」等の青年部活動を牽引しています。

今, 浜では, ホタテ半成員の搬入が終了し, 休む間もなくホヤ種苗の挟み込み作業を行っているとのこと。

今後も20代の若き戦力のさらなる活躍が期待されます。

### ○編集後記

横江青年漁業士が私と同年と知って大変驚きました。そして, 漁師カレッジの卒業生には私よりも若い方がいらっしゃいます。彼らの若き力に負けぬよう, 仕事に取り組んでいきたいと思えます。(K.T.)